



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 MRKホールディングス株式会社

コード番号 9980 URL <https://www.mrkholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 眞二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-7655-5000

四半期報告書提出予定日 平成31年2月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	13,353	26.8	△153	ー	△180	ー	△482	ー
30年3月期第3四半期	10,528	13.5	393	ー	341	ー	505	ー

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 △549百万円 (ー%) 30年3月期第3四半期 622百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	△4.77	ー
30年3月期第3四半期	5.42	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	19,821	15,161	76.5
30年3月期	20,601	15,812	76.8

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 15,161百万円 30年3月期 15,812百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	ー	0.00	ー	1.00	1.00
31年3月期	ー	0.00	ー	ー	ー
31年3月期(予想)	ー	ー	ー	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,600	24.7	145	△83.9	△110	ー	△390	ー	△3.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	101,295,071株	30年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	73株	30年3月期	69株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	101,294,999株	30年3月期3Q	93,268,755株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、緩やかな景気の回復基調とともに推移いたしました。しかしながら、経済環境は依然として先行きの不透明な状況が続いており、個人の消費動向についても注視が必要な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは中期経営方針として『Maruko Avenir Project 2020』を掲げ、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう“美”に関する多彩なサービスを提供する『美の総合会社』の実現に向けて、平成30年10月1日に持株会社体制へ移行するなど、様々な取組みを推進いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は133億53百万円（前年同期比26.8%増）、営業損失は1億53百万円（前年同期は営業利益3億93百万円）、経常損失は1億80百万円（前年同期は経常利益3億41百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億82百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益5億5百万円）となりました。

前年同期に比べ増収となりました主な要因は、平成30年3月に連結子会社化した株式会社エンジェリーベが期初より売上に貢献した他、マルコ株式会社においては、店舗網及びボディスタイリストの拡充を推進した結果、売上が増加いたしました。

一方で、前年同期に比べ減益となりました主な要因は、以下のとおり当第3四半期連結会計期間（10月～12月）に業績を大きく改善したものの、当上半期に生じた体型補整下着の主力製品シリーズ『カーヴィシヤス』の生産遅延を要因とする営業損失（5億19百万円）をカバーするには至りませんでした。

《当第3四半期連結会計期間（10月～12月）の業績について》

当第3四半期連結会計期間においては、平成30年3月に連結子会社化した株式会社エンジェリーベによるマタニティ及びベビー関連事業が業績寄与するとともに、婦人下着及びその関連事業において、主力製品シリーズ『カーヴィシヤス』の生産体制が安定し、期初より積極的に推進しております新規出店及び既存店の移転・改装や、ボディスタイリストの採用（当第3四半期累計227名）などの先行投資が実を結んだ結果、売上高47億34百万円（前年同期比47.2%増）となりました。

利益面においては、婦人下着及びその関連事業において、主力製品シリーズ『カーヴィシヤス』の納品が安定し、値引き等の販売促進施策の適正化による売上総利益率が改善するとともに、テレビCM等のプロモーションを効率的に実施いたしました結果、営業利益率が対当第2四半期比+9.8ポイントと、大幅に改善いたしました。

上記の結果、当第3四半期連結会計期間（10月～12月の3ヶ月間）は営業利益3億66百万円（前年同期は1億21百万円の営業損失）となり、決算期変更（平成25年3月期）後、第3四半期としては最高の営業利益を達成するとともに、同期間（10～12月）では10年ぶりの黒字を達成いたしました。

当社グループにおける事業セグメントの概要は次のとおりです。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美に関連する製商品の販売が主なものであります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、当上半期が主力製品シリーズ『カーヴィシヤス』の生産遅延により、一時的に収益が悪化いたしました。当第3四半期において、以下のとおり大きく収益改善いたしました。

平成30年10月には主力製品シリーズ『カーヴィシヤス』の安定的な供給体制が整った結果、値引販売品の売上構成比の縮小などにより、売上高の増収となり、売上総利益率も改善いたしました。また上半期より強化しておりましたテレビCM等、様々なメディアプロモーションにより、新規顧客やリピート購入が拡大いたしました結果、既存店売上は前年同期比18.9%増となりました。特に上半期に移転・改装いたしました店舗につきましては前年同期比24.6%増となりました。

また、集客ノウハウの蓄積により、効率的な広告宣伝の展開が可能となるなど、第2四半期累計期間までの一時的な損失をカバーするまでには至らなかったものの、営業利益率、額ともに、第2四半期累計期間に比べ、大幅に改善いたしました。

以上の結果、婦人下着及びその関連事業の売上高は113億38百万円、セグメント損失は1億27百万円となりました。

〔マタニティ及びベビー関連事業〕

マタニティ及びベビー関連事業においては、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨、出産の内祝いギフトの販売が主なものであります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、自社ECサイト及び大手ショッピングモールでの販売が堅調に推移する中、一般のママたちからの投票の得票結果で選ばれる「マザーズセレクション大賞2018」（一般社団法人日本マザーズ協会）を受賞したことにより、同賞受賞の発表日（平成30年11月20日）以降の受注件数が増加し、マタニティ事業の平成30年12月売上は前年同月比18.2%増となりました。さらにベビー事業においても、前年同月比68.1%増となりました。一方で、物流体制の見直しなど、中長期的な成長を見据えた体制づくりへの投資を推進いたしました。

なお、当事業の主軸となる株式会社エンジェリーベを平成30年3月に完全子会社化したことに伴うのれんの償却として26百万円を計上しております。

以上の結果、マタニティ及びベビー関連事業の売上高は20億28百万円、セグメント損失は26百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は137億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億48百万円減少いたしました。これは主に、売掛金の増加、たな卸資産の増加及び現金及び預金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は60億92百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億69百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加の結果によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は40億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億78百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加、短期借入金の減少及び未払法人税等の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は5億69百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円増加いたしました。これは主に、資産除去債務の増加及び長期借入金の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は151億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億51百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び剰余金の配当による利益剰余金の減少の結果によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の連結業績予想につきましては、平成30年11月13日の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,291,037	4,648,537
売掛金	3,462,711	4,948,817
商品及び製品	1,384,911	2,322,569
原材料及び貯蔵品	258,272	401,120
その他	422,697	1,457,852
貸倒引当金	△41,961	△50,043
流動資産合計	14,777,669	13,728,854
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	785,286	1,100,732
土地	830,724	830,724
その他(純額)	297,615	363,819
有形固定資産合計	1,913,625	2,295,276
無形固定資産		
のれん	273,691	318,519
その他	93,559	216,365
無形固定資産合計	367,251	534,884
投資その他の資産		
投資有価証券	1,790,000	1,840,000
その他	1,752,478	1,422,371
投資その他の資産合計	3,542,478	3,262,371
固定資産合計	5,823,355	6,092,532
資産合計	20,601,025	19,821,387

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,575,691	2,011,971
短期借入金	395,500	—
未払法人税等	382,625	94,318
賞与引当金	107,378	75,900
返品調整引当金	13,000	9,000
ポイント引当金	460,000	381,000
株主優待引当金	77,177	132,934
資産除去債務	7,090	16,503
その他	1,250,029	1,368,821
流動負債合計	4,268,492	4,090,450
固定負債		
長期借入金	16,005	8,529
退職給付に係る負債	8,340	9,770
資産除去債務	308,421	334,624
その他	186,848	216,331
固定負債合計	519,615	569,256
負債合計	4,788,107	4,659,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	2,856,442	2,272,395
自己株式	△22	△23
株主資本合計	15,821,759	15,237,710
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,448	6,324
退職給付に係る調整累計額	△15,289	△82,354
その他の包括利益累計額合計	△8,841	△76,030
純資産合計	15,812,918	15,161,680
負債純資産合計	20,601,025	19,821,387

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	10,528,918	13,353,644
売上原価	5,095,428	6,882,743
売上総利益	5,433,489	6,470,900
返品調整引当金戻入額	14,000	13,000
返品調整引当金繰入額	13,000	9,000
差引売上総利益	5,434,489	6,474,900
販売費及び一般管理費	5,041,030	6,628,099
営業利益又は営業損失(△)	393,459	△153,199
営業外収益		
受取利息	736	2,726
受取配当金	9,819	16,012
受取手数料	20,021	71,284
その他	28,624	58,908
営業外収益合計	59,202	148,931
営業外費用		
支払利息	—	3,363
株式交付費	32,323	—
株主優待引当金繰入額	60,874	132,934
株主優待費用	15,045	35,709
その他	2,777	3,818
営業外費用合計	111,020	175,826
経常利益又は経常損失(△)	341,641	△180,093
特別利益		
退職給付制度改定益	341,077	—
その他	9,731	79
特別利益合計	350,808	79
特別損失		
減損損失	891	2,502
固定資産除却損	3,129	5,454
その他	2,684	2,747
特別損失合計	6,705	10,704
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	685,744	△190,718
法人税、住民税及び事業税	143,478	125,475
過年度法人税等	—	84,497
法人税等調整額	37,179	82,060
法人税等合計	180,658	292,034
四半期純利益又は四半期純損失(△)	505,086	△482,752
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	505,086	△482,752

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	505,086	△482,752
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△112	△124
退職給付に係る調整額	117,579	△67,064
その他の包括利益合計	117,467	△67,188
四半期包括利益	622,553	△549,941
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	622,553	△549,941
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婦人下着及び その関連事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	10,278,918	10,278,918	250,000	10,528,918
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	10,278,918	10,278,918	250,000	10,528,918
セグメント利益	189,605	189,605	203,853	393,459

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、集客支援等の事業を含んでおりません。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ及び ベビー関連事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	11,338,900	2,014,744	13,353,644	—	—	13,353,644
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	13,424	13,424	—	△13,424	—
計	11,338,900	2,028,168	13,367,069	—	△13,424	13,353,644
セグメント損失	△127,076	△26,122	△153,199	—	—	△153,199

(注) セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来より婦人下着及びその関連事業の単一セグメントでしたが、前第4四半期連結会計期間より、株式会社エンジェリーベが連結子会社になったことに伴い、報告セグメントに「その他事業」を追加しております。なお、第1四半期連結会計期間より、重要性が増加したことに伴い、「その他事業」から「マタニティ及びベビー関連事業」に変更しておりますが、含まれる事業内容に変更はありません。